



名古屋いのちの電話

1998年度 事業報告 眠らぬダイヤル開始記念号



写真 文珠 幹夫

自分自身に

吉野

弘

他人を励ますことはできても

自分を励ますことは難しい

だから——というべきか

しかし——というべきか

自分がまだひらく花だと

思える間はそう思うがいい

すこしの気恥ずかしさに耐え

すこしの無理をしてでも

淡い賑やかさのなかに

自分を遊ばせておくがいい

『北入曾』より

眠らぬダイヤル始まる

社会福祉法人 愛知いのちの電話協会 理事長 長岡利貞

長い間、市民の皆さんにお約束してまいりました、名古屋いのちの電話「24時間体制」がこの5月1日から始まりました。これで都市の機能に必備とされている電話相談がいよいよ本格化したことになり、名実ともに眠らぬダイヤルが実現したわけであります。これは私たち関係者だけの喜びではなく、電話相談の本来の意義を理解しておられる方、これの実現を待ちわびておられる市民の方々の慶びであると思います。

振り返りますと十数年前、名古屋にも「いのちの電話を」という市民の声に励まされて、昭和区の一隅に呱呱の声をあげました（1985）。それから社会福祉法人化、全国研修大会の主管、それに日頃の地道な研修活動、これらはいずれ24時間体制への準備の期間でもありました。

ただその拠点はやや手狭であることや、24時間体制に移行するには困難な事情があったために、かねてから適地を他に求めてきましたが、格好な地がありませんでした。思いあぐねていましたところ、はからずも私たち「名古屋いのちの電話」の開設以来の後援者の方のご好意で、好条件でしかも交通至便の地に移ることができました。

24時間体制が発効したということは、ただ受信時間が延長になったということだけにとどまりません。いまや電話社会は大きく変わりつつあります。ポケットベル・携帯電話は言うに及ばず、電子メール・インターネットなどコミュ

ニケーションの方法はめまぐるしいばかりに変動しています。まずこの状況に対応していかねばなりません。また最近では公私にわたり電話相談を名乗る機関に簇生そくせいの感があり、その需要は飽和の状態にあるものとおもわれます。このような状況のなかにあつて、「いのちの電話ならではの電話相談とは何であるのか」がつよく問われるのは当然であります。

いのちの電話が発足した当初、設立の目的のひとつに自殺予防を重要な役割と掲げ、危機介入をモデルとした対応や研修が重んじられてきましたが、昨今の利用者の実態をみると、このモデルではとらえることができないような複雑かつ困難な事例が増加していることがわかります。これらの新たな問題に対応するためには、一段と斬新な方法が開発され、それにふさわしい研修のありかたが問われることになりましょう。

24時間体制への移行を機会に、これまで積み残してきた課題を整理しまた検討し、その解決のために新しい一步を踏み出すことができれば幸いです。

この移転と24時間体制への移行という大きな事業にたいして、多くのかたがたから物心両面にわたるご援助をいただきました。この紙上をお借りして厚くお礼を申し上げますと同時に、今後とも私たちの活動にたいして、ご理解とご鞭撻をお願いいたします。

いのちの電話の訓練研修で、いちばん大切にしていることは「気づき」（アウェアネス）という事柄です。世間一般では、研修というのは知的学習であり、技法の習得ですから説明してもなかなか理解してもらえません。私が最近訳した電話カウンセリングの本の中で、「気づき」以外の何かよい訳語はないかと考え、結局「意識の洗い直し」というようなことばで表現しました。説明をすれば、感受性をもって自分自身と他者についての理解を深めるということでしょう。善意や知識だけで人を援助することは出来ません。それどころか援助を妨げているのは、よい援助関係をつくれぬ援助者自身です。そのことに気づかず、また相手の気持ちにも気づいていないところの課題があるのです。相談員自身の気づきと人間成長なしには他者の相談にあずかることは出来ないのです。

私は、東京いのちの電話に本格的にかかわる前に、米国のある小都市のいのちの電話で研修を受けたことがあります。その時同じエンカウンター・グループにいたキャシーは、知的で魅力ある献身的な女性で、良い学歴と幅広い教養を持っていました。けれども研修グループの中ではなかなか自分の気持ちをオープンにすることが出来ませんでした。他のメンバーは一向にグループの中に入ってこないキャシーを持って余していましたし、彼女もそれをもどかしく思っていました。ところがちょっとした出来事によって自分の問題に気づき、初めて自分の経験を話すことが出来ました。それ以来彼女は大きく変わったのです。

それは彼女がまだ若い母親であった時、3歳になった長男を亡くすという悲しくまた痛ましい経験でした。この経験は彼女をうつ状態にし、なかなか立ち直ることが出来ませんでした。それでも彼女の高い教養とやや保守的な信仰によっ

て取り乱すようなことにはならず立ち直りました。そうした経験に耐え、あたかも何事もなかったかのように、少なくとも人にはその悲しみや辛さの片鱗すら示さなかったのです。不幸の中にあっても、愚痴や不満を語らず、忍耐して弱音をはかず誇り高く微笑みをもって生きるというのが彼女の身上でした。だから、人のめそめ

そした繰り返言やくだい訴えはなかなか聴けませんでした。

しかし、微笑みながらも涙が出て来て仕方がない自分、それを受け止めてくれる仲間がいるというこの経験はまさに新しい「気づき」でした。

しかし研修グループの中で、キャシーは自分の辛く悲しい出来事を初めて話すことができ、しかも仲間がみんなでそれを受け止めてあげた時、彼女は身悶えして、ただ泣けて泣けて仕方がない経験をしたのです。それはあたかも最初の悲劇を再体験したかのようなものでした。自分の肉親でさえ受け止めてくれなかった悲しい経験を、いのちの電話のグループが受け止めたのです。この出来事は彼女の、人間はこうあらねばならないとする、とらわれていた気持ちを自由にしました。それまでのキャシーは相談を受けても、相手のネガティブな気持ちに触れることが苦手で、自殺問題などは逃げたい思

いでした。それがこの経験以来、相手のネガティブな気持ちに沿って聴くことができるようになりました。自分の弱さが受け止められたという思いの中で、彼女はこころの癒しを経験し、援助とは何かを学んだのです。これはキャシー一人にとっても、相談員としても大きな成長でした。ボランティア自身の成長なしにはいのちの電話はあり得ません。

社会福祉法人いのちの電話

常務理事 斎藤友紀雄

「気づき」

ということ



1998年度 事業報告

1998年度事業の概略を報告させていただきます。愛知ののちの電話協会の電話相談活動に、この年度もかわらぬご支援を賜りました賛助会員、賛助法人並びに寄付者（個人及び団体）の皆さまに心よりの感謝を申し上げます。また一年を通じて一日の休みもなく奉仕頂きました相談員の方々の御苦勞にあらためて敬意と感謝を申し上げます。

理事会報告

開局14年目となった1998年度は、長岡利貞新理事長以下理事、評議員の構成を新しくして、組織の若返りを図りつつ、活動の全般にわたって、新しい飛躍と前進を願ってスタートした年度でありました。

電話相談の受信件数は、年間総計13,989件、開局以来の受信総数は192,207件(99年3月末)に達しました。世間では、依然として、いじめ問題や児童虐待等への憂慮もあり、いのちの電話への社会の要請や期待はますます強まっていくことが感じられます。こうした情勢を反映して、携帯電話業界大手のNTTドコモ東海から同社社会貢献としてのいのちの電話への短縮コード設置の提案があり、名古屋、浜松、岐阜のセンターに賛助支援を頂けることとなった。そのほか、この年度新しく法人賛助会員に加入頂いた会社も例年に比して増加し、冷え切った経済環境下にも関わらず、いのちの電話に対する世間の関心の強まりと期待の大きさに責任を痛感させられる年でありました。

相談員養成講座は、年度の半ば10月より第11期養成講座を開講し実施中であります。当初50名を定員とした募集に対し、100名を越える応募があり、現在80名が受講中であります。ボランティア活動についての世間の関心の高まりと、養成講座の内容についての評価の然らしむるものと考えられます。相談員の継続研修、スーパービジョンは前年に引き続き、新しい方式を採り入れ進行中であります。相談員諸氏の熱意と訓練指導をご奉仕下さる講師の方々の尽力に感謝と敬意を表わす次第であります。

一般市民の間に「いのちの電話」を印象づけたいとの願いをもって企画いたしました「フリーマーケット」「かんぼ心の健康増進セミナー」「チャリティーコンサート」などは、総務委員を中心にボランティアの奉仕によりいづれも好評を得ることが出来ました。

当年度の最大のトピックは24時間体制の実現についてでありました。開局以来の悲願でありました「眠らぬダイヤル」は、開局当初よりの賛助会員内川正邦氏の好意と誠意溢れる提案により実現の道が開け、ほぼ一年に及ぶ準備と計画の作業を重ねて1999年4月末にはセンターを移転し、5月1日より24時間受信、眠らぬダイヤルが実現することとなりました。

深刻な不況の続く、きびしい経済環境の中にも、充実した活動が与えられ、資金の上にも必要なものを与えられ、更には、開局以来の念願達成の道が開かれた記念すべき年でありました。ご支援をお寄せ下さる個人、法人並びに団体の皆さまに厚く御礼申し上げます。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会

理事長 長岡利貞

理事 豊田寿子、笠原 嘉、野村純二、鈴木郁雄、岡部快圓、木本精之助

監事 内河恵一、小山 勇

評議員 長岡利貞、西沢信正、水谷 魏、山口幸男、加藤迪春、梶原 寿、川原 恵、柿本大真、木島正司
兼田智彦、長井 潤、安藤和彦、浜下訓子、常富佳子、キース ハンフリーズ

常務理事 木本精之助

総務委員会報告

総務委員会の役割について

この委員会は、設立準備委員会から始まって訓練委員会と役割を担いあい、当初は運営委員会と称しましたが、総務委員会となり、訓練・財務委員会とともに理事会・評議委員会をお支えして、いのちの電話の組織の円滑な運営のお手伝いをしています。

けれど委員会で話される内容が多岐にわたり、その性格が、訓練・財務のようにはっきりしている訳ではありませんので「何をしているか」よくおわかりにならない方もいらっしゃると思います。私は、ごく単純化して申しますと「いのちの電話」の働きの社会への啓蒙と、そこに関わる相談員、ボランティアの方が、いろいろな面でよりよく関われるためのお手伝いをすることだと思っています。

それは、この一年間の委員会での主な議題を知っていただければお分かりいただけると思います。

この一年間の主な議題は、以下の通りです。

- ・フォーラム98について
- ・チャリティーコンサートについて
- ・フリーマーケットについて
- ・かんぼ心の健康公開講座について
- ・賛助会員募集について
- ・24時間体制の実現に向かって
- ・新センター開設・移転の件

①工事内容について

- ②みこころセンター感謝会と眠らぬダイヤル発足記念の集い

これらの事項につきまして、その企画・立案と評価反省を行ってまいりました。

これらの中でも最大の大きな喜びは、新しいセンターが与えられ、悲願の24時間相談がスタートしたことです。しかし、新しい歩みを始めたばかりですので、ハード・ソフトの面での問題、また直接相談に関わられる方々のご苦労が多くあることと思います。それらのことの、より良い解決と工夫のための力と助けになれることが、この委員会の大きな使命であると考えています。

(総務委員長 長井 潤)

訓練委員会報告

1998年度は名古屋いのちの電話開設以来の懸案であった24時間受信態勢の実現に向けて大きく前進した一年であった。訓練委員会の主な活動は以下のようなものであった。

○98年度の登録相談員数は163名であった。登録の必要条件である前年度スーパービジョンの未終了者24名には督促を行い全員が無事に条件を満たした。98年度の他センターよりの移籍者は1名、長期欠席申請者は11名であった。

○11期生の募集は8月に開始し、140名が応募、面接の結果100名の受講を決定した。11期Aと11期Bの2クラスを開講し、基礎訓練とロールプレイは月曜と火曜に、講義は合同で研修を行い、年度末までに第一課程を終了した。第二課程は99年度上期で終了を予定し、11月頃の認定を目指している。

○継続研修は97年度より採用している新制度の2年目に入った。問題点は、ベルの会の話し合い研修の月と講師による研修の月とで出席率が極端に異なるグループがあり、出席率を維持する工夫を求めたい。年間4回以上の継続研修欠席者に対しては、登録更新の条件としてレポートを課した。

○98年度のケース研究は「性」をテーマとして8月8日に行った。約30名が出席し活発な話し合いが行われた。今年度はケース提供者が確保できず1回しか開催できなかったため、99年度は継続研修の中で検討されたケースの提供なども呼びかけて活性化していきたい。

○新たに訓練委員として水谷巍氏・高本紀子氏の2氏に委嘱した。相談員の増加による仕事量の増大と、前訓練委員長代理の理事長就任に伴う欠員による仕事量の集中に対応するためであり、いのちの電話での訓練担当経験者や各委員経験者の中から専門領域や学職等を考慮して選考し、訓練委員会で協議の上決定した。

○99年3月には99年度のための登録更新研修を行った。当初予定した2回の研修会に加えて更に2回を追加し、合計4回の登録更新研修会を開催してようやく全員の登録更新研修を終えることができた。ご協力くださった相談員、事務局員、訓練委員諸氏に感謝したい。(訓練委員長 山口真人)

財務委員会報告

1998年度の決算と今年度の予算を報告します。

当年度も、依然として低迷するままの景気動向の中にありましたが予算対比で収入は92%にとどまったものの、支出を89%に抑えて収支の均衡を保つことが出来ました。

皆様方のご理解とご協力に感謝致しております。

しかし、無難な推移の中で賛助会費の対前期伸率がABCランクの間で変化が現れたことは今後の展開への示唆ではないでしょうか。

今年度の予算は、景気の好転が未だ望めないことと新施設での24時間体制への移行を踏まえて収入は手堅く前年の10%減、支出は新施設での諸経費のうち賃貸料は確定しておりますが、共益費、水道光熱費、クリーニング費、駐車場料金など未確定費目を抱えておりますので予備費を計上致しました。

従いまして、新施設でのスタート後これら費目の支出が略々把握出来た段階で予算を補正する必要があります。各部署からのデータの提供を今からお願い致しておきます。

何れにしても“入るを畳って出るを制す”心構えを求められることは今年も変わりありません。

こういう財務上からの事情に加えて、電話相談本来の姿勢を保ちつつその存在価値を失わないよう社会的役割を担っていかなければなりません。

12時間体制から24時間体制へと規模が2倍に拡がるにつれて、不具合や不合理や冗費が漫然と膨れ上がっている事はないか、お互いに点検・不良在庫の棚卸しをしてみなければならぬと思えます。

心底から電話相談を必要としている人達に回線が優先して使われていけるように、ご寄付された浄財を決してムダにしないように努めて、時にはボランティア活動の本源に立ち戻って究明してみることも必要だと思えます。

電話相談の切なる要望に応えるために総務、訓練、財務各委員会の相互理解を一層深めてゆくことは私どもの大切な務めと存じます。

(財務委員長 加藤迪春)

1998年度収支決算

1999年度 予算

科 目	98年度決算
助 成 金	1,150,000
賛助会員(A)	1,580,000
賛助会員(B)	630,000
賛助会員(C)	465,000
会費(個人)	310,000
会費(法人)	5,775,000
相談員友の会会費	155,000
寄付金(個人)	1,025,692
寄付金(団体)	1,099,159
年 末 募 金	1,042,850
特別事業収入	1,363,391
講座受講料	3,490,000
基金募金収入	
事業収入計	18,087,092
受 取 利 息	321,884
雑 収 入	90,826
収 入 計	18,499,802

科 目	99年度予算
助 成 金	1,400,000
賛助会員(A)	2,100,000
賛助会員(B)	1,100,000
賛助会員(C)	600,000
会費(個人)	350,000
会費(法人)	6,000,000
相談員友の会会費	210,000
寄付金(個人)	1,500,000
寄付金(団体)	1,000,000
年 末 募 金	1,100,000
特別事業収入	1,250,000
講座受講料	1,200,000
基金募金収入	100,000
受 取 利 息	140,000
雑 収 入	150,000
収 入 計	18,200,000

教育・訓練費	4,171,390
広 報 費	522,864
調査研究費	30,370
会 議 費	16,371
特別事業費	588,541
連盟負担金	321,000
諸 会 費	183,800
職 員 給 与	6,341,510
法定福利費	67,950
旅費交通費	947,970
退職給与当金	600,000
保 險 料	
共 益 費	1,440,000
水道光熱費	960,000
営 繕 費	41,286
通 信 費	559,649
文具・印刷費	580,549
消耗品費	184,206
雑 費	165,297
固定資産取得費	
基金繰入	
事業支出費	17,722,653
雑 支 出	
支 出 計	17,722,653
収 支 差 額	777,149
前期繰越金	1,590,463
次期繰越金	2,367,612

教育・訓練費	2,620,000
広 報 費	700,000
調査研究費	130,000
会 議 費	50,000
特別事業費	650,000
連盟負担金	330,000
諸 会 費	200,000
職 員 給 与	6,570,000
法定福利費	70,000
旅費交通費	940,000
退職給与当金	600,000
保 險 料	20,000
賃 貸 料	2,400,000
共 益 費	300,000
水道光熱費	500,000
営 繕 費	70,000
予 備 費	400,000
通 信 費	600,000
文具・印刷費	550,000
消耗品費	200,000
雑 費	200,000
固定資産取得費	
基金繰入	100,000
支 出 計	18,200,000

眠らぬダイヤル発足記念寄付者

長岡 利貞	中川 鋪子	水谷 巍	兼田 智彦	白木由紀子	小嶋 洋一	湯浅 康正
伊藤美江子	伊藤宗太郎	加藤 迪春	内川 正邦	松本 勝正	三田村とま子	森 茂也
岡崎 和子	前田 豊子	横地 欣也	三上 茂	岩田 鏡一	石田喜代子	青島美代子
太田喜久雄	豊田 江美	小出 芳典	中川 晋介	橋本 良男	林 周子	橋本 芳子
生田 純子	石田 妙美	水野 由吉	神谷 将弘	持田 宣夫	坂東 信吾	真木 芳子
水野 真	野田 晏子	梨本 将代	青山 玄	片岡ミチエ	高橋 郁子	寺田 仁計
浦下 桂子	上田 きよ	幾田 淑子	加藤みゆき	志村 信夫	斉藤喜世子	川村 敏雄
山口 真人	柳澤 幸輝	会澤 俊三	小川 邦泰	市川 真康	森岡 諭	本田 健次
小栗 厚紀	長岡 稔	岸 正倫	大脇なほみ	富永 美恵	遠山千寿子	林 純子
藤垣 鏡雄	星野 陽子	神田喜代子	小川眞智子	加藤 厚子	中川 幸子	水谷 節子
竹村 絹子	山下タカ子	市川 徳政	野村 紘子	服部 由美	野村 純一	笠原 嘉
初井 敦子	山口 幸男	野々垣美保	子安 崇雄	高木 博文	早川 鈞	梶原 寿
神田 陽子	辻巻 真	藤吉 康司	黒田 忠嘉	鈴木 豊	菅 和世	岩田 圭子
浅野喜代子	国井 照子	中野 悦美	田畑 洋子	吉田 聖	武嶋 米子	榎本 正子
服部 昭子	中村巳佐子	宮内 順子	井坂津矢子	舟橋 弘	鈴木 弘之	野田 勝子
永井 洋子	西澤 信正	松浦三千夫	相馬 康人	清水 道子	大野 佳子	須藤よし子
寺田 恵英	加藤 義也	牧岡 恒夫	中島 正子	川村佳代子	安藤知津子	飯塚重五郎
舟橋いさゑ	志村 澄江	伊藤みつ子	須田 静代	梶原 久江	川崎 秀子	石黒 康治
田中健次郎	澁沢 直次	澁沢 治子	片山 主水	浅野恵美子	鳥井 寛	福井 圭子
山下 昌子	文珠紀久野	鏡味 泰雄	佐々木広子	塚田 道生	宇佐見保子	金子 範子
石川 昌夫	木本精之助	松岡 朱美	片岡 満雄	林 喜代乃	小笠原 覚	竹内 照子
小島 丈夫	吉岡満智子	近藤 和子	森川 信子	長谷川幸子	鈴木よう子	佐藤 嘉孝
磯部優美子	亀井 光代	今西 尚子	見木 靖美	長谷川倭子	矢満田篤二	溝口 興治
中村かつ代	桜井 淳子	塩屋 長子	佐藤 紀子	宮里 及子	笠嶋登美子	石橋 邦子
竹内 宏子	家田 鷹子	四日 薫	原 セツ	細川美代子	田沼 育子	福井 隆二
秋田あや子	加藤 倫子	塩野 高子	小山 恒生	橋本 信江	渡辺佳津子	岡部 快圓
前田 勝昭	鈴木 栄子	佐藤あさ子	細田智津子	菊池 幸子	富江真佐美	河村 久子
アース石産	鎌田 蓉子	鈴木 杉江	小林 久徳	加藤 実男	近藤 直枝	戸城 敦子
吉田 好枝	中村真理美	竹内 文子	桐林 真紀	堀尾 勇夫	平野 登美	寺田 弘子
水谷 真	大戸 伸子	鈴木 郁雄	神戸 政治	林 恵美子	舟越 信三	濱田 和子
青木 裕子	大嶽 恒雄	下村 徹嗣	村上くみ子	近藤 祐昭	大賀 吉弘	木島 正司
森崎 康宜	小石川恵子	浅野恵美子	永田 輝代	太田 重一	刑部 敦子	神野 啓子
伊藤美佐子	西村洲衛男	原口 芳明	稲垣 吉孝	河村 公子	佐藤 辰一	藤田紀美子
鈴木ひさ子	浜本 孝子	中村 和彦	宮内 英夫	伊藤小百合	岩崎 和子	早川みどり
西垣 覚	長岡 稔	荒山真喜子	吉田 敏男	安井 充子	小林 英雄	水谷 敦子
安藤 和彦	上野 美子	笠井 康助	榎戸 佳子	林 温江	紅林 綾子	浅井 秀明
福田 昌男	石田 弘幸					

専念寺三浦俊彦 薬師寺柿本大真 京ヶ峰岡田病院 カトリック南山教会 名古屋西教会
 カトリック神宮修道会 復活ルーテル教会婦人会 永沢寺岡島博司 霊友会第27支部同志の会
 寂光院松平實胤 曹洞宗玉林寺早川一味 日本キリスト教団愛知教会社年会 長林寺
 名古屋東教会婦人会 宝泉寺 曹洞宗慶昌院 徳翁院安井良法 祥雲寺 愛知教会婦人会
 乾徳寺 曹洞宗本光寺 功德院伊藤大英 曹洞宗岳桂院 曹洞宗春日寺 曹洞宗玉林寺
 曹洞宗弥勒寺 曹洞宗円通寺橋本晃全 曹洞宗長松寺 曹洞宗白毫寺 曹洞宗長松院
 山下機械株式会社 オフィスコア株式会社 中部メルテック株式会社 アサダ株式会社
 トヨタ部品愛知共販株式会社 黒金化成株式会社 イリヤ化学株式会社代表取締役入谷直行
 株式会社三秀プレジジョン代表取締役神谷昭司 NTT名古屋支店 東海理化電機製作所

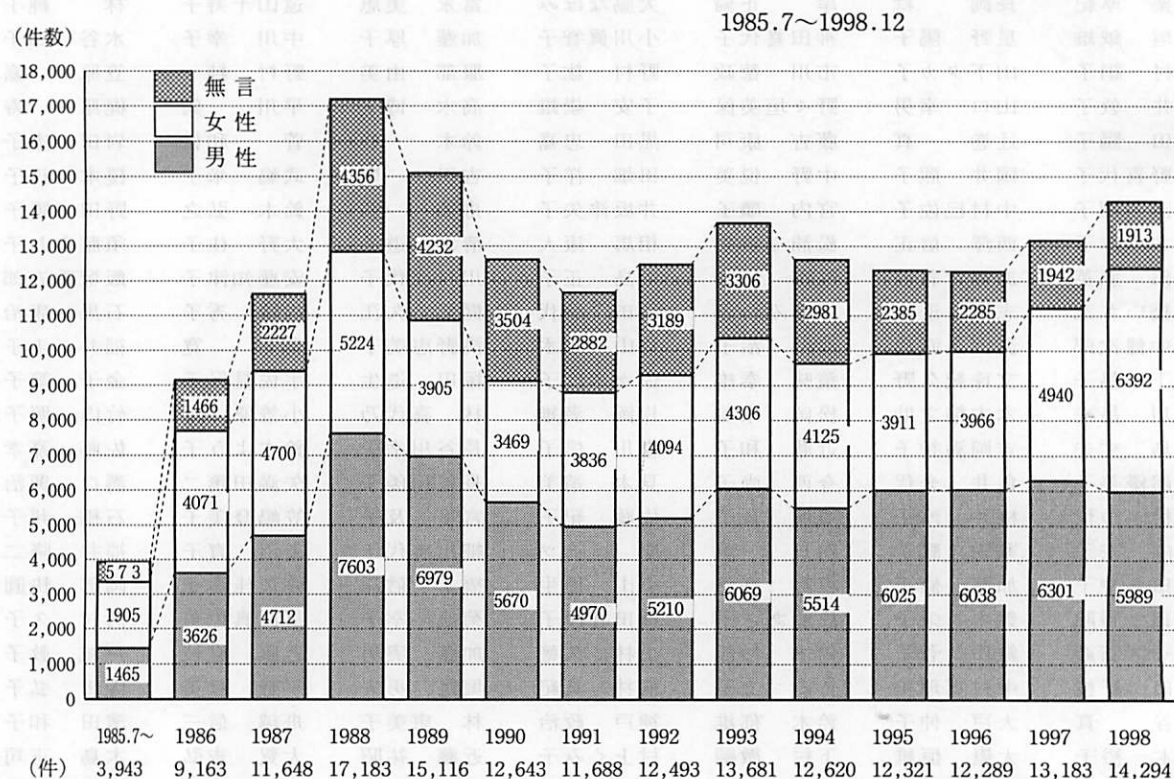
(4月30日現在)

グラフで見る名古屋いのちの☎

○14年間の受信件数の推移 (1985年7月～1998年12月)

1985年からの総受信数は172,265件で、相談員との会話がなかった無言電話37,241件をのぞくと相談電話の受信数は135,024件となります。(1998年12月31日現在)

1998年は1日あたり33.9件の相談電話を受信しています。



電話相談と社会資源

電話相談のなかでさまざまな社会資源を使ったり、紹介することがある。

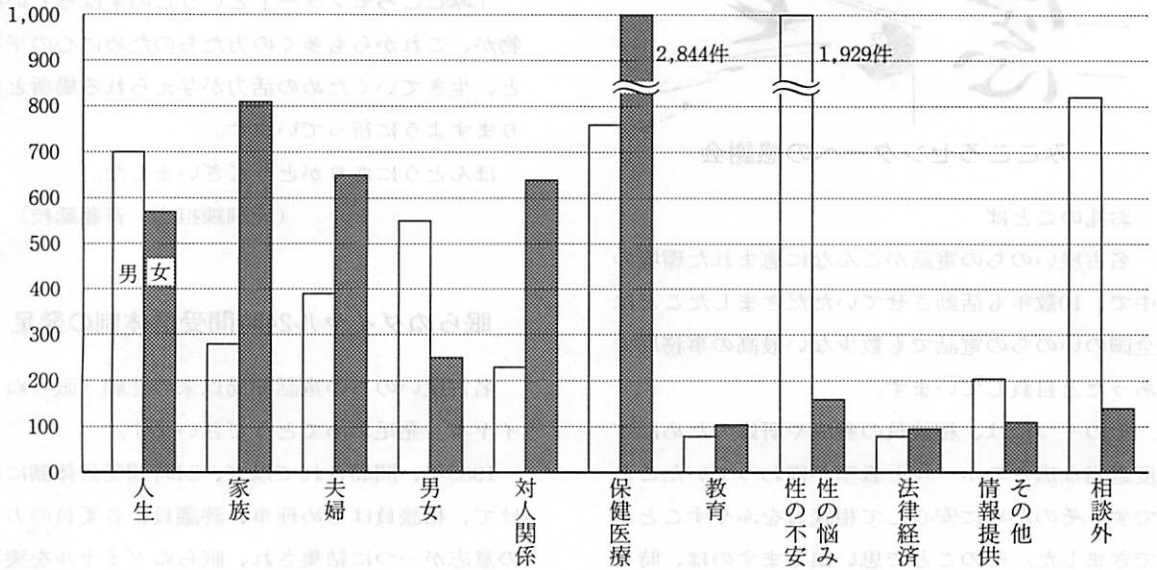
電話相談では「問題を解決する」ことよりもまず「利用者とのかかわりのなかで、解決の方法や方向を見いだす」ことが中心となる。つまり、さまざまな問題を抱えて困っている利用者にたいして、誠実な聞き手・親身な協力者になることだと言われている。

電話相談員のなかには「ただ相手の話を聞くだけで相談が終わってしまうのだが、それでいいのだろうか」といつも思っている人達もいる。しかし、電話相談員にできる最も重要なことは「相手の話を聴くこと」なのだ。

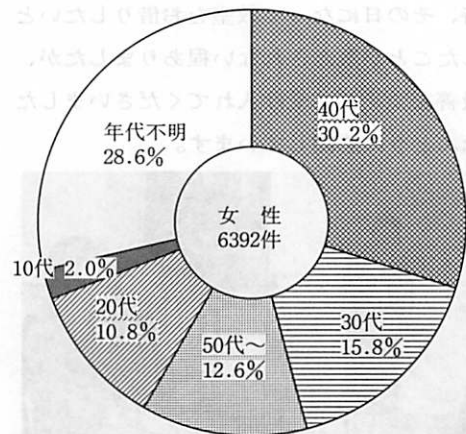
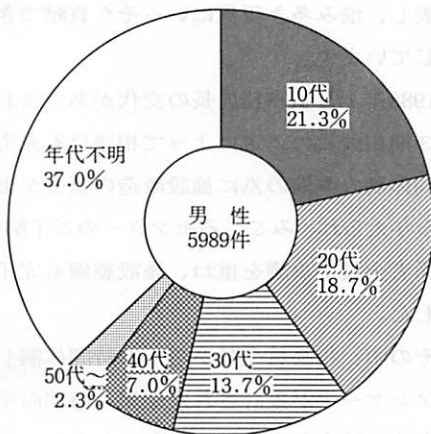
このように考えると、電話相談での問題解決には地域社会やさまざまな社会資源とのネットワークが必要なのだろう。

○相談内容男女別の相談件数

(件数) □ 男性 5,989件 ■ 女性 6,392件 総件数 12,381件 (1998.1~12)

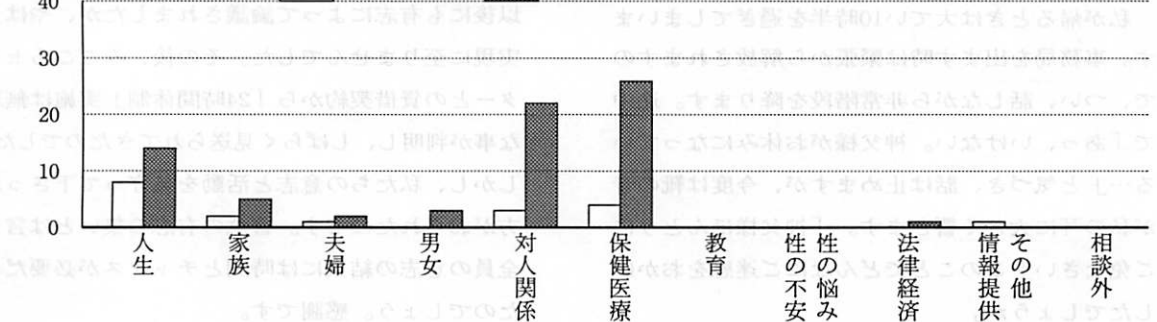


○男女別・年代別の相談件数



○自殺指向電話の相談内容男女別件数 (1998.1~12)

(件数) □ 男性 19件 ■ 女性 73件 総件数 92件 (全体の0.7%)





みこころセンターへの感謝会

お礼のことば

名古屋いのちの電話がこんなに恵まれた環境の中で、10数年も活動させていただきまされたことは全国のいのちの電話でも数少ない最高の事務局であったと自負しています。

その一つには、相談員の養成や研修のために丁度適当な広さのホールと教室が備わっていたことです。そのために安心して相談員をふやすことができました。そのことで思い出しますのは、時々研修がこちらの都合で変更になる時がありました。そんな時、その日になって教室をお借りしたいとお願いしたことが数えきれない程ありましたが、いつも最善をつくして受け入れてくださいましたことにほんとうに感謝しています。



次にお詫びしたいことがあります。

私が帰るときは大抵10時半を過ぎてしまいます。事務局を出ます時は緊張から解放されますので、つい、話しながら非常階段を降ります。途中で「あっ、いけない。神父様がお休みになっている…」と気づき、話は止めますが、今度は靴の音が私の耳に大きく響きます。「神父様ほんとうにご免下さい」このことでどんなにご迷惑をおかけしたのでしょうか。

お許しく下さいませ。

そして、非常階段のセンサーによるライトはとも助かりました。これも大きな感謝です。

「みこころセンター」というこのすばらしい建物が、これからも多くの方たちのために心の平和と、生きていくための活力が与えられる場所となりますように祈っています。

ほんとうにありがとうございました。

(元訓練担当 斎藤延枝)

眠らぬダイヤル24時間受信体制の発足

名古屋いのちの電話開局以来の悲願「眠らぬダイヤル」発足おめでとうございます。

1985年、開局されて以来、24時間受信体制にむけて、相談員はじめ理事、評議員、各委員の方々の意志が一つに結集され、眠らぬダイヤルを実現できたことは、関係者の皆様の努力の賜物と敬意を表し、悩み多き現代にいつそう貢献できる事と信じています。

1988年1月頃事務局長の交代がありましたが、第3期相談員の認定によって相談員も充実し、24時間体制の準備の為に施設改造の資金が丸紅基金から与えられ、みこころセンターのご了解をえて、関係者全員で論議を重ね、施設整備も完了したのでした。

その頃、相談員全員から「24時間体制」に関するアンケートが集計された結果、時期尚早の意見が多く、結実しませんでした。しかし、24時間受信相談は関係者全員の心の課題として常にあり、社会福祉法人格取得と、開局5周年記念を迎えた以後にも有志によって論議されましたが、やはり実現に至りませんでした。その後、みこころセンターとの貸借契約から「24時間体制」実施は無理な事が判明し、しばらく見送られてきたのでした。しかし、私たちの意志と活動を見守って下さった方がおられたのです。善意の有志の集いとは言え全員の意志の結束には時間とチャンスが必要だったのでしょう。感謝です。

(元事務局長 笠井康助)

ご援助ありがとうございます

1999年1月1日より4月末日までに下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同深く感謝いたしますと共に
ご報告申し上げます。(順不同・敬称略)

なお、上記期間内に何度もご寄付くださった方もお名前は1回にさせていただきます。

社会福祉法人愛知のちの電話協会
理事長 長岡 利貞
財務委員会

賛助会員A

岡田 清子 佐藤 あさ子 平岡 義和 前田 豊子 佐藤 勝利 会澤 俊三
鳥井 寛 朽久保 滌子 田上 文蔵 吉田 弘明 吉田 好枝
金城学院キリスト教センター 金城教会福祉社会委員会

賛助会員B

岸 正倫 浜本 孝子 粕谷 靖彦 初井 英夫 飯塚 三千子 荒川 容子
兼田 智彦 鏡 味泰雄 山本 秀樹 島田 吉枝 磯部 理恵子 磯部 隆俊
森岡 敏 寺田 恵英 森崎 康宜 榎戸 佳子

賛助会員C

中谷 塩子 棚橋 千珠子 タイス・ヘルガ 中井 加代子 浜野 正子 山田 敦代
水谷 節子

会費

木本精之助

寄付金

伊藤 雅子 初井 英夫 松岡 朱美 高橋 郁子 荒川 容子 榎田 陽子
島田 吉枝 栗田 昌子 田沼 育 朝倉夏雄・建子
カトリック岐阜教会社年会 日本キリスト教団名古屋中央教会 日本キリスト教団豊田教会婦人会
名古屋学院大学宗教部 名古屋YMCA 日本キリスト教団瀬戸永泉教会 名古屋北教会社会奉仕委員会
金城教会福祉社会委員会 布池カトリック教会 金沢聖霊修道院

賛助寄付

株式会社岡田パテントサービス アスゲン製薬株式会社釜戸工場 愛知トヨタ自動車株式会社 株式会社サンゲツ
株式会社タケヒロ

助成金

中日新聞社会福祉事業団 東海テレビ福祉文化事業団

クリスマス歳末募金

平野 昌子 岸 正倫 石田 夏枝 中谷 聖子
幼き聖マリヤ修道院 カトリック半田教会 日本キリスト教団豊山教会 日本キリスト教団広路教会
日本キリスト教団中京教会 一宮聖光教会 聖ステパノ教会 社会福祉法人聖霊病院 日本福音ルーテル希望教会
日本キリスト教団半田教会 カトリック魚津教会 カトリック高蔵寺教会 日本キリスト教団天白教会
日本キリスト教団南山教会 カトリック神宮修道会多治見教会 名古屋YWCA 日本キリスト教団名古屋桜山教会
日比野カトリック教会

24時間眠らぬダイヤルまでのあゆみ

1985年の開局当初より名古屋いのちの電話には以下のような大きな課題がありました。

1. 相談員を養成確保する
2. 活動の拠点となる施設を整備する
3. 社会福祉法人の認可を受ける
4. 財政の基盤を確立する
5. 眠らぬダイヤル24時間受信体制を実現する。

開局以来14年間を經過し、1~4の課題はそれぞれに、難問をかかえながらも、協力者奉仕者の知恵と力を集めて、何とかクリアすることが出来て、1996年には10周年を記念して全国研修会を名古屋に於て開催し、目的とする福祉の実践に成果をあげて来ることが出来ました。

しかし、第5の課題である24時間、眠らぬダイヤルの実現は困難な道程でありました。開局当初の強行実施の機会を見送った後は、暫定的な午後10時までの12時間受信体制が固定した状態が続くことになりました。

24時間受信は、日本のちの電話連盟の基本線の一つでもあり、名古屋に於ても自己確認に類する話題が起るたびに、早期実現への期待や決意が語られたことでした。

このテーマに関して全相談員のアンケート調査も両三度実施され、相談員の24時間に対する意識は積極的な昂まりを示し、あとは、これを可能にする施設、場所を与えられることが、残された大きな課題でありました。種々の機会に24時間受信可能な場所を求め努力が重ねられましたが、容易に道が見いだせないで年を重ねておりました。

こうした背景の中で、篤志家内川正邦氏より、好意ある提案を頂き大いに勇気づけられることになりました。眠らぬダイヤルを可能にする場所を確保する道が開かれて、1998年度は、具体的な諸準備に明け暮れる年となりました。

現代社会では、生きることに困難を覚える人にとっては深夜の孤独と不安は、はかり知れず、心の危機には朝まで待てない場合のあることは容易に想像できることです。しかし24時間受信のためには相談員のための環境整備、生活時間の調整、健康管理等の他、質、量にわたる課題も多く、その克服のためにはかなりのエネルギーを必要といたします。

スタートした「眠らぬダイヤル」は、14年間に蓄積されたノウハウと情熱をもって、価値ある課題に立ち向かおうとしています。

賛助会員を募集しています

ご協力をお願いします

いつも資金ボランティアとして会費やご寄付をいただき有難うございます。心から御礼申しあげます。年間2,000万円の運営資金と共に、法人の基金を10年間で1億円積立の課題を与えられております。会員の皆様の倍旧のご支援と共に、会員増加の運動にもお力を添えて下さいますようお願いいたします。法人となり寄付金の税法上優遇措置が受けられます。誠に失礼ですが振込票を同封させていただきます。ご利用くだされば幸いです。

- (1) 法人会費 年間5万円・10万円・20万円
- (2) 賛助会員(年間1口) A 10,000円 B 5,000円 C 3,000円
- (3) 一般寄付はご自由な金額で結構です。
- (4) 夏期・年末寄付

口座名 社会福祉法人愛知いのちの電話協会 理事長 長岡利貞

口座番号 東海銀行大津町支店(普) 477029

郵便振替口座 00810-8-53758

お問い合わせは… 社会福祉法人愛知いのちの電話協会 名古屋いのちの電話
事務局 ☎ 971-5181

社会福祉法人愛知いのちの電話協会

1999年初夏

名古屋いのちの電話

〒461-8691 名古屋東郵便局 私書箱第257

1999年6月1日発行

事務局 ☎ 052-971-5181

郵便振替口座 00810-8-53758

発行人 長岡 利貞

相談電話 ☎ 052-971-4343

東海銀行大津町支店(普)預金口座 477029

編集人 広報委員会